



夢をもち ともにやりぬく

6月号

南っ子

磐田市立磐田南小学校

「あいさつ」「ふわふわ言葉」を大切に

低学年昇降口の軒下にツバメの巣があります。少し前に卵がかえり、親ツバメが忙しそうにえさを運んでいます。親ツバメが到着すると、ひなたちはエサを欲しがり一斉に大きな口を開けて迎えます。親ツバメの愛情をいっぱいを受け、ひなたちは日に日に大きくなり、巣立ちに向けて準備をしています。



中庭には1年生が育てている朝顔が成長し、支柱をしっかりとつかんでつるを伸ばしています。1つ、2つと花が咲き始め、1年生が毎朝楽しみに観察しています。2年生が育てているトマトやナス、オクラも実を付け始め、子供たちは収穫を心待ちにしています。心のこもったお世話のおかげで、朝顔や野菜もそれにこたえて順調に成長しています。

1学期も終わりが近づき、子供たちもそれぞれの学年に見合った健やかな成長が感じられます。仲間と勉強や運動、日々の生活を共にするなかでいろいろなことを考えたり感じたりして、心が成長していきます。教師や友達、異学年の子、いろいろな人たちとたくさん良いかかわりをすることで豊かな心が育ち、自己肯定感も高まってきます。

では、どうしたらより良いかかわりが生まれるのでしょうか？一つは「さわやかあいさつ」、もう一つは「ふわふわ言葉」だと思っています。

あいさつを交わすことは、自分の心を開き、相手のことを大切に思うことです。初めてあった人でも、あいさつをすることで次の会話やかかわりにつながります。あいさつは人と人をつなげる魔法の言葉です。自分から進んであいさつをするのが苦手な人でも、あいさつをしてもらったらニコリ笑顔であいさつを返しましょう。

「ふわふわ言葉」も素敵ですね。磐田南小では毎朝の放送の中で「今週のふわふわ言葉」が素敵なエピソードと共に紹介されています。友達の良さを認め、励まし、勇気づけ、ときにはなぐさめるお話で、いつも心がいやされます。「ふわふわ言葉」を使うことで、相手が優しい気持ちになることはもちろん、自分自身もさらに優しい気持ちになり、よりよいかかわりにつながります。

「さわやかあいさつ」と「ふわふわ言葉」で「夢をもち ともにやりぬく 南っ子」を目指しましょう。

(校長 松井 信治)